

一般社団法人 岩の力学連合会
2019年度・第1回理事会 議事録

日時	2019年5月14日(火) 14:00-17:20	場所	資源・素材学会会議室
----	---------------------------	----	------------

理事会	理事長	新 孝一	○	理事	奥野 哲夫	×	理事	西村 強	●
	副理事長	岸田 潔	●	理事	清木 隆文	○	理事	芥川 真一	×
	幹事長	岡田 哲実	○	理事	森岡 宏之	○	理事	長田 昌彦	○
	理事	谷 和夫	○	理事	児玉 淳一	○	理事	下田 直之	○
	理事	小山 倫史	×	理事	伊藤 高敏	○	理事	横尾 敦	○
	理事	齋藤 禎二郎	×	理事	佐藤 晃	○	理事	上田 日出男	○
	監事	西本 吉伸	○	監事	細野 高康	○	オブザーバー	清水 則一	×
	オブザーバー	安原 英明	●	オブザーバー	藍檀 オメル	×	オブザーバー	尾留川 剛	○

敬称略順不同, ○: 出席, ×: 欠席, ●: スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	頁	資 料
資料 2019 理 1-01	1	平成 30 年度・第 4 回理事会議事録 (案)
資料 2019 理 1-02	7	会員の入退会
資料 2019 理 1-03	10	2018 年度事業報告 (案)
資料 2019 理 1-04	18	2018 年度決算 (案)
資料 2019 理 1-05	23	監査報告書
資料 2019 理 1-06	24	定款の変更案
資料 2019 理 1-07	26	2019-2020 年度役員候補者
資料 2019 理 1-08	27	2019 年度事業計画 (案)
資料 2019 理 1-09	30	2019 年度予算 (案)
資料 2019 理 1-10	33	2019 年度, 2020 年度代議員当選者一覧
資料 2019 理 1-11	34	2019 年度定時社員総会開催通知, 議決権行使書, 総会案内
資料 2019 理 1-12	42	国際シンポジウム YSRM2019&REIF2019
資料 2019 理 1-13	58	国際シンポジウム「火山地域の応用地質と岩の力学に関する国際ワークショップ (仮)」
資料 2019 理 1-14	63	国際技術委員会
資料 2019 理 1-15	64	日本学術振興会 育志賞受賞候補者の推薦
資料 2019 理 1-16	66	THE 1ST VIETNAM – CHINA RESEARCHERS AND ENGINEER SYMPOSIUM
資料 2019 理 1-17	67	国際シンポジウム 2019RDS 結果速報
資料 2019 理 1-18	当日配布	編集委員会
資料番号なし		常設委員会委員長候補案
資料番号なし		各委員会予算

【議 題】

- 平成 30 年度 第 4 回理事会議事録の承認* (岡田) 資料 2019 理 1-01
修正なく議事録は承認された。
- 会員の入退会の承認* (岡田) 資料 2019 理 1-02
前回理事会で審議した退会者について, 細井様の退会が慰留できたことが報告された。池見様, 吉田様については慰留ができなかったことが報告され, 本日付の退会が承認された。本日の理事会で退会を希望している塚本様については清木理事が, 柏谷様については児玉理事が退会の慰留を行うこととなった(その後, 清木理事より塚本様の退会が慰留できたとの連絡があった)。
入会者(賛助会員 1 社, 正会員 3 名, 学生会員 3 名)については全て入会が承認された。
3 年以上会費を滞納している 16 名のうち, 高倉様, 山田様, 馬様については清木理事が, 笹岡様, 船津様については佐藤理事が, 高橋様については森岡理事が, 薛様については児玉理事が退会の慰留を行うこととなった(その後, 馬様, 高橋様の退会が慰留できたとの連絡があった)。また, 李

様は中国に既に帰国されたとの情報があり、本日、退会を承認することとなった。慰留を行った後、会費の滞納会には、支払いいただけない場合には退会となる旨の文書を加え、催促を行うこととなった。

会費の滞納者を減らすため、会費の自動引き落としについて、事務局に実施の可能性を検討してもらうこととなった。

3. 国際シンポジウム **YSRM&REIF2019** について (安原) 資料 2019 理 1-12
YSRM&REIF2019 の準備状況 (科研費の実施報告, 交付申請, 助成金申請, 投稿リスト等) が紹介された。特に質疑はなく, 紹介の内容については了承された。

4. 国際シンポジウム火山 (仮) について (長田) 資料 2019 理 1-13
会議の名称は「**Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology at Volcanic Fields**」となったこと, 主要メンバー, スケジュール等が紹介され, 以下の質疑があった。

- C. 資料に名前の記載がある方は, 委員としてご参加いただきたい。
- Q. 山口大学の中島先生が太田先生の近くで相談に乗れるので適任ではないか。
- A. ぜひ参加をお願いしたい。
- Q. 安原先生も **Steering Committee** に入っていたらいいか。
- A. 承知した。
- Q. 登録システム関係については奈良先生が詳しいことなのでお願いしたいと思うがどうか。
- A. 適任と思う。また, 小山先生, 橋本先生が入っていると協力的なメンバーになると思う。
- C. あと富樫先生にも入っていただく予定である。
- C. 新の名前があるが, 総会の後, 業界も去るので恐縮だが除いていただきたい。
- C. シンポジウム開催時には, 次々期の理事になっているのでもし可能なら次々期の理事メンバーにも入ってもらった方がよい。
- C. **ISRM** の総会が 9/15 と記載されているが, 総会の前に **ISRM** に対して **Specialized Conference** の申請をしないといけないので主な日程に記載しておいた方がよい。
- Q. どのくらい前に申請すればいいか。
- A. はっきりしないが総会でアナウンスをするのであれば, その前に **ISRM** に認められていなければならない。**ISRM** の **Bylaws** に規程があるのでよく確認した方がよい。日本応用地質学会との覚書を作るときに, 基本的な資料をつけている。
- C. 資料 58 ページの伊藤先生が **ISRM** 理事長と記載されているが **JSRM** 理事長に修正した方がよい。

以上より, 紹介の内容については了承された。

5. 国際シンポジウム **2019RDS** について (清木) 資料 2019 理 1-17
2019RDS の開催速報 (暫定版) が紹介され, 以下の質疑があった。

- Q. 会計監査は監事が行うか。
- A. お願いしたい。
- Q. いつ頃実施するのか。
- A. 今後 1~1.5 ヶ月くらいで整理がつくと思うので, その頃ご相談したい。

以上より, 開催速報の内容については了承された。

6. [総会議案 1] 2018 年度事業報告の承認* (岡田) 資料 2019 理 1-03
2018 年度事業報告が紹介され, 以下の質疑があった。

- C. 1. 事業概要の (6) を (5) に修正したい。
- Q. 1. 事業概要の (4) 国際活動概要の 3) の **2019RDS** について「開催された」と記載があるが, 2018 年度の事業報告としては準備を進めたの方がよい。
- A. 承知した。準備を進めたと記載し, 開催日については括弧書きとしたい。
- C. 応用地質学会は日本応用地質学会の間違いである。
- Q. 会員数が 336 名となっているが, 入退会の資料では 335 名であったが大丈夫か。
- A. 先ほど紹介のとおり, 1 名慰留ができたので 336 名で間違いはない。
- Q. 会員が 10 名減ったことに対して大幅な減少と記載があるが, 10 名は 3%なので「大幅な」は記載しなくてもよいのではないか。
- A. 承知した。
- Q. 年月日の表記が様々なので統一した方がよいのではないか。

- A. では「y. m. d.」の表記に統一する。
- C. P.13の平成31年事業計画は2019年事業計画の間違いである。
- C. P.12の地下空間シンポジウムの開催場所は土木学会となっているが、早稲田大学国際会議場の間違いである。
- Q. 岩盤力学シンポジウムについても日付や開催場所を記載した方がよい。
- A. 承知した。岩盤工学基礎講座についても開催場所が抜けているので記載したい。
- C. P.13のRIEFはREIFの間違いである。
- Q. P.13のインデントが揃っていないの修正した方がよい。
- A. 承知した。
- Q. P.15のILC研究企画特別委員会について、3つ目に「・ILCポータルサイトの運用」を加えてほしい。
- A. 承知した。
- Q. Rock Net MailとRock Netメール、配信を発信が混在しているので統一した方がよい。
- A. Rock Netメールと配信に統一する。

以上の修正を行うことにより、2018年度事業報告は承認された。

7. [総会議案2] 2018年度収支決算の承認※(岡田) 資料2019理1-04, 資料2019理1-05
2018年度収支決算が紹介され、以下の質疑があった。

- Q. P.18の支出の備考欄でYSRM科研費の記載が見られるが、YSRMのみでよいのではないか。
- A. 承知した。
- Q. P.19のYSRM特別会計について、支出に記載の金額と科研費の実績報告書に記載した金額が約5000円ほど異なるのはなぜか。
- A. 科研費では口座開設経費と口座維持費が経費として認められなかったが、正味財産増減計算書では、その一部を支出として計上しているためである。
- Q. 定款で理事会の承認を得なければならない書類として、その他に貸借対照表の付属明細書というのがあるが、これはなくてもよいのか。
- A. 貸借対照表よりも詳細な情報がないため、必要ない。
- C. 正味財産増減決算書内訳書は正味財産増減計算書内訳書の間違いである。

以上の修正を行うことにより、2018年度収支決算は承認された。

8. [総会議案3] 定款の変更の承認※(岡田) 資料2019理1-06
定款の変更が紹介され、以下の質疑があった。

- C. 今回ISRMについては、機関名称の最後にand Rock Engineeringを追加したが、JSRMについては変更を行っておらず、今後の検討課題である。JSRMについては定款の1条に記載がある。
- C. JSRMの名称の変更については、日本語名称の変更も検討する必要がある。
- C. JSRMの名称の変更については、会員レベルで意見を募るようなステップも必要かもしれない。

以上より、定款の変更は承認された。

9. [総会議案4] 役員を選任の承認※(岡田) 資料2019理1-07
役員を選任が紹介され、以下の質疑があった。

- Q. 任期に2020年と記載があるが、2020年までという意味か。
- A. その通りである。例年このような書き方になっている。以前は任期が異なる役員がいたため、このような記載になっていると思う。誤解を受けないようにするため、任期の列は削除する。

以上の修正を行うことにより、役員を選任は承認された。

10. [総会報告1] 2019年度事業計画の承認※(岡田) 資料2019理1-08
2019年度事業計画が紹介され、以下の質疑があった。

- Q. 5.ISRM事業への参加・協力の項目で協力・参加となっているところがあるので、統一した方がよいのではないか。
- A. 参加・協力を統一する。
- Q. ISRM Congressの査読に4月にも協力しているので、5.ISRM事業への参加・協力、および(3)

- 電子ジャーナル委員会の項目に追加した方がよいのではないか。
- A. 承知した。両方に「ISRM Congress 運営への協力」を追加する。
 - Q. 国際シンポジウム火山地域の岩盤・応用地質（仮称）については正式名が決まっているのであれば、記載した方がよい。
 - A. 英語名「Workshop on Rock Mechanics and Engineering Geology at Volcanic Fields」を記載する。
 - Q. 岸田先生を副総裁に推薦したことは記載しなくてよいか。
 - A. まだ結果が出ていないため記載しないこととしたい。
 - Q. 電子ジャーナルについて、第 15 巻第 1 号のみ記載があるが、第 2 号が出る可能性もあるではないか。
 - A. 第 15 巻と記載し、第 1 号は削除することとする。
 - C. Rock Net Mail と Rock Net メールが混在しているので、Rock Net メールに統一する。また、発信と配信が混在しているので、配信に統一する。
 - Q. 28 ページの 2) Rock Net メール配信について、「配信担当は一人体制とし、短時間での配信を目指す。」との記載があるが、他の項目と比較して記載内容が細かすぎるのではないか。
 - A. この文が削除する。
 - Q. 29 ページの下から 4 行目に「賛助会員特別会議の提言の取りまとめ」の記載があるが、前年度も実施しているのに今年度も実施するということになるがよいか。また、正確に記載するとすれば、賛助会員特別会議は、企画特別委員会ではないので、項目は賛助会員特別会議運営企画特別委員会とするべきではないか。
 - A. 事業報告の記載と揃えて、項目は賛助会員特別会議運営企画特別委員会とし、1) 賛助会員特別会議の開催、2) 賛助会員特別会議のあり方の検討としたい。
 - Q. 岩盤工学基礎講座、岩の力学国内シンポジウムに関する記載がないがよいのか。
 - A. 事業報告の記載と揃えて、9. 国内会議等活動支援を 7. 国内会議等の準備・開催とし、この 1 つ目に岩盤工学基礎講座の準備と開催、2 つ目に第 15 回岩の力学国内シンポジウムの準備を追加することとしたい。
 - Q. 前年度の賛助会員特別会議の提言に対する活動を事業計画に加えた方がよいのではないか。
 - A. 常任理事会の記載の最後に、「賛助会員特別会議の提言を受けて、会員サービスのさらなる向上に努める。」を追加することとしたい。

以上の修正を行うことにより、2019 年度事業計画は承認された。

11. [総会報告 2] 2019 年度収支予算の承認※ (岡田) 資料 2019 理 1-09
2019 年度収支予算が紹介され、以下の質疑があった。

- C. 正味財産増減予算書内訳は正味財産増減計算書内訳書の間違いである。
- C. 正味財産増減計算書内訳書の国際 S 火山特別会計の列について 2 つ目、3 つ目の表の表題が人材育成支援会計となっているのは国際 S 火山特別会計の間違いである。
- Q. 正味財産増減計算書内訳書について、146 万円は実際は基金から借り入れて基金に戻すことになると思うが、この書き方だとそのように読めないのではないか。また、実際に 146 万円は基金から一度引き出す予定なのか。
- A. 指摘の通りでなので、この記載方法については監事、会計担当と相談させていただきたい（その後、2019RDS は黒字化となり基金を使用する必要がないため 146 万円については記載しないこととなった）。
- Q. ISRM 役員支援費等の総務委員会費はどこに含まれているのか。
- A. 各委員会予算の中に含まれており、一般会計の交通費 40 万円が含まれている。
- Q. 基金の計算書 (P.32 中表と下表) では、「一般会計への繰入」の記載があるが、正味財産増減計算書内訳書では特別会計となっているので、不整合ではないか。
- A. 指摘の通りでなので、この記載方法については監事、会計担当と相談させていただきたい（その後、特別会計への繰入という記載にするとともに正味財産増減計算書内訳書に番号をつけて両者の対応が明確になるように修正を行った）。
- Q. 基金 (基本財産) 増減計算書 (P.32 上表) では、利息収入が 10,000 円となっているがこれでよいか。
- A. 基金 (基本財産) のみ定期であり、利息が大きいのは確かである。前年度の実績にあわせてつもりであるが、この金額については監事、会計担当と相談させていただきたい（その後、現在の利息から計算される 3,520 円と記載することとなった）。

以上の修正を行うことにより、2019 年度収支予算は承認された。

12. [総会報告 3] 2019-2020 年度代議員選挙結果の承認※ (岡田) 資料 2019 理 1-10

2019-2020 年度代議員選挙結果され、質疑はなく承認された。

13. 総会開催通知等の確認 資料 2019 理 1-11
総会開催通知等について紹介され、以下の質疑があった。
- C. P.35 と P37 の山本さんの所属に句点の誤植があるため修正が必要である。
- 以上の修正を行うことにより、総会開催通知等は了承された。
14. 委員会審議・報告事項
- 1) 編集委員会（谷） 資料 2019 理 1-18
編集委員会の議事録が報告されるとともに、理事長、幹事長、各委員会委員長に岩の力学ニュースの執筆依頼があった。これに対して、賛助会員が新しく 1 社加わったので、できるだけ早い号で紹介していただきたいとの依頼があった。
- 2) 国際技術委員会*（横尾） 資料 2019 理 1-14
令和元年度海外助成候補者（4 名）の紹介があり、特に質疑なく、承認された。
- 3) 電子ジャーナル委員会（児玉） 資料なし
ISRM Congress の査読を終了したことが報告された。
- 4) Rock Net 委員会 資料なし
特に報告はなかった。
- 5) 連合会賞選考委員会（岸田） 資料なし
特に報告はなかった。
- 6) 総務委員会（岡田） 資料なし
特に報告はなかった。
- 7) ILC 委員会（横尾） 資料なし
特に報告はなかった。
- 8) 賛助会員特別会議（尾留川） 資料なし
特に報告はなかった。
15. 連合会規則の改定*（新）
連合会規則の 31 条に「委員長は理事の中から理事会の推薦により理事長が委嘱する。」との記載があり、理事でない委員長になることができない。しかし、常任委員会とは別としても企画特別委員会については、事情によっては理事以外が就任できるようにした方がよいとの意見があった。これより、31 条を「原則として、委員長は理事の中から理事会の推薦により理事長が委嘱する。」と改定することが提案された。これに対して質疑はなく、承認された。
16. その他 資料番号なし
- 1) 委員会委員長について
次期委員会委員長案の紹介があり、以下の質疑があった。
- Q. 担当理事についてはどのようになるのか。
- A. 現状、各委員会には担当理事がいるが、必要ないのではないかと考えている。各委員会を担当するという曖昧な役割ではなく、岩盤工学基礎講座担当理事、岩盤力学シンポジウム特別セッション担当理事など、役割が明確な方がよいのではないかと。
- C. 定期的に会議を行っている編集委員会のような委員会の場合、委員長の代理がいた方がよいと思う。
- C. 規則の 31 条を先ほど改定したので、委員長代理は必ずしも理事でなくてもよいのではないかと。
- C. 幹事が代理するのが無理がない。
- Q. 担当理事ができた経緯は何か。
- A. 従来実施していた専門幹事会がなくなって、幹事長に集中する仕事を分担するという意図から担当理事を作ったと記憶している。新しい仕事があるなら、その仕事を理事に割り当てればよいと思う。

- C. 会員サービス担当等を新たに作ればよいと思う。
- Q. 担当が決まっていない理事は何人くらいになるのか。
- A. 半数くらいである。
- C. 岩盤力学特別セッション担当，岩盤工学基礎講座担当，岩盤科学技術の創生担当，岩の力学コンテンツ担当，会員サービス担当，賛助会員を増やすための戦略を考える担当，将来構想 2016 に記載されている編集委員会と Rock Net 委員会を統合して広報委員会を設立する担当などが考えられる。
- C. 常設委員会の委員長候補は概ね決まったが，ILC 企画特別委員会と賛助会員特別会議運営企画特別委員会の委員長候補を総会までに決める必要がある。

2) 日本学術振興会 育志賞受賞候補者の推薦（新） 資料 2019 理 1-15
 日本学術振興会 育志賞受賞候補者の推薦について紹介があり，以下の質疑があった。

- Q. Rock Net に募集を掲載してはどうか。
- A. Rock Net は JSRM の会員でない人も見れるので掲載は適切ではないと思う。
- C. JSRM 推薦となるので JSRM 会員限定となる。また，学会推薦のみで個人推薦もない。時間も限られているので現理事と次期理事でドクターの学生がいる先生を対象にするということかどうか。
- Q. 大学から推薦する枠もあるのか。
- A. 大学や研究機関の枠もある。学会から 1 名，他の枠では合計 4 名まで推薦できることが書かれていたと思う。
- C. 申請は JSRM の理事長名で行い，ID やパスワードは多分事務局に来ている文書の中にあると思う。
- C. 時間的に余裕がないので応募は来ないと思う。
- C. 現理事の中で，候補者があれば至急挙げてもらうということでもいいのではないか。

以上より，次のことが確認された。応募期間は，6 月 3 日～5 日間で，選定期間は今から 3 週間である。候補者がいれば，5 月 24 日までに，今期と次期の 3 役に書類を全部揃えて出していただく。理事長名で書く推薦書類などもあるが，知らない学生のことを書けないので，理事長が書く書類も準備したうえで，5 月 24 日までに提出していただく。その後の選定は学会から 1 名なので，今期と次期の計 6 名の 3 役に一任していただくことにする。

3) THE 1ST VIETNAM – CHINA RESEARCHERS AND ENGINEER SYMPOSIUM（岡田） 資料 2019 理 1-16
 ISRM 事務局から送られてきた THE 1ST VIETNAM – CHINA RESEARCHERS AND ENGINEER SYMPOSIUM の紹介があった。至急 Rock Net に情報を流すことになった。

17. 今後の予定

- 1) 社員総会：5 月 31 日（金）13:30-

※決議・承認事項

以上